

## 関東地震 100 年国際シンポジウム

-International Symposium on the Centennial of the 1923 Kanto Earthquake-

### 【概要】

日時：2023 年 10 月 23-24 日

場所：東京大学武田先端知ビル内 5 階 武田ホール（オンライン中継あり）

主催：地震・火山噴火予知研究協議会

共催：東京大学地震研究所

### 【内容】

1923 年の関東地震から 100 年の間、関東地震の発生機構、震源断層および周辺の構造、長期的な地震の発生確率、断層面上の固着の分布および関東地震震源域への応力の再蓄積等を明らかにするために多くの努力がなされてきました。また、過去に発生した同様の都市周辺の地震に関する研究や、将来の地震についての評価も、世界のいくつかの場所で行われています。本シンポジウムでは、こうした取り組みを概観するとともに、関東およびその他の都市部における地震に関する研究の今後の方向性について議論します。

### 【招待講演者】

- ・ Roland Burgmann (UC Berkeley)
- ・ Matt Gerstenberger (GNS Science)
- ・ Jeanne Hardebeck (USGS)
- ・ Hiroo Kanamori (Caltech, online)
- ・ Saburoh Midorikawa (Tokyo Tech)
- ・ Junichi Nakajima (Tokyo Tech)
- ・ Takuya Nishimura (Kyoto Univ.)
- ・ Akemi Noda (Meteorological Research Institute)
- ・ Kenji Satake (Univ. Tokyo)
- ・ Yuichiro Tanioka (Hokkaido Univ.)
- ・ Ikuko Wada (Univ. Minnesota)
- ・ David Wald (USGS)

### 【世話人】

- ・ 谷岡勇市郎（予知協議長,北海道大学）
- ・ 石山達也・内田直希・加藤愛太郎・加納靖之・三宅弘恵・荒井道子（東京大学）

### 【WEB】

[https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/ex/H31-R5/R5/symposiumKanto2023\\_jp.html](https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/ex/H31-R5/R5/symposiumKanto2023_jp.html)

-----

※シンポジウム参加人数：248 名

# 【International Symposium on the Centennial of the 1923 Kanto Earthquake】 Program

Date : October 23 (Mon.)-24 (Tue.) , 2023

Place : TAKEDA FRONTIER SCIENCE HALL, 5th Floor, Takeda Building, The University of Tokyo  
(+ with Zoom online streaming )

Language: English

## Day 1 (October 23 Mon.)

13:00-13:15	Opening Remarks	Yuichiro Tanioka (Chair, CCEVPR), Takashi Furumura (Director, ERI University of Tokyo)
13:15-13:50	Past recurrence and future forecast of Kanto earthquakes	Kenji Satake (Univ. Tokyo)
13:50-14:25	Revisiting the 1923 Kanto, Japan, earthquake on its hundredth anniversary – Historical data and comparative subductology	David Wald (USGS)

(20 min break)

14:45-15:20	Source model for the 1923 Kanto earthquake estimated from tsunami and coseismic deformation data	Yuichiro Tanioka (Hokkaido Univ.)
15:20-15:55	Strong ground motion of the 1923 Kanto, Japan earthquake	Saburoh Midorikawa (Tokyo Tech)
15:55-16:30	Century-long geodetic data and its implication for the Kanto earthquake cycle	Takuya Nishimura (Kyoto Univ.)
16:30-16:45	Discussion	
17:30-19:30	Reception (※Social party at Sanjo kaikan 1F)	

## Day 2 (October 24 Tue.)

9:00-9:35	Anatomy of "repeating" great earthquakes and the Kanto earthquake	Hiroo Kanamori (Caltech, online)
9:35-10:10	Slab geometry, earthquakes, and heterogeneous structures beneath the Tokyo metropolitan area	Junichi Nakajima (Tokyo Tech)

(20 min break)

10:30-11:05	Thermal conditions of plate boundary earthquakes beneath Kanto	Ikuko Wada (Univ. Minnesota)
11:05-11:40	Seismic hazard and forecasting for decision making in New Zealand	Matt Gerstenberger (GNS Science)
11:40-12:15	Earthquake triggering: from observations to operational forecasting	Jeanne Hardebeck (USGS)

(※Light lunch at the Foyer of the Hall)

13:15-13:50	Decadal changes in crustal deformation and earthquake potential of the Hayward fault, California	Roland Burgmann (UC Berkeley)
13:50-14:25	Stress accumulation on the plate interface in the Kanto region and rupture scenarios for great thrust-type earthquakes	Akemi Noda (MRI)
14:25-15:00	Slow and fast earthquakes in the Kanto region	Aitaro Kato and Naoki Uchida (Univ. Tokyo)
15:00-15:20	Discussion and concluding remarks	

< information >

• Organized by Coordinating Committee of Earthquake and Volcanic Eruption Prediction Researches,  
Earthquake Research Institute, The University of Tokyo

• Co-organized by Earthquake Research Institute, The University of Tokyo

※ Registration fee is free but you must pre-register.

※ This symposium is for professionals and students but everybody that is interested in the topic is welcome.

## シンポジウム

### 「火山噴火の中長期的予測に向けた研究の現状と今後の課題」

- ・ 日時 : 2023 年 12 月 23 日 (土曜日)
- ・ 場所 : オンライン (Zoom Webinar)  
※講演者・パネラーは, 東京大学地震研究所会議室
- ・ 主催 : 地震・火山噴火予知研究協議会, 火山計画推進部会
- ・ 後援 : 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト, 特定非営利活動法人日本火山学会, 気象庁
- ・ 世話人 : 伊藤順一 (産業技術総合研究所)・西村太志 (東北大学)・藤田英輔 (防災科学技術研究所)・前野 深 (東京大学)・青山 裕 (北海道大学)・中道治久 (京都大学)
- ・ シンポジウム参加人数 : 125 名
- ・ 詳細 web ページ  
<https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/ex/H31-R5/R5/symposiumKazan20231223.html>

## プログラム

9:30～ 開会（プログラム・質疑対応等に関する事務連絡等）

- ・ 講演第 1 部（本会の開催背景，趣旨説明，これまでの火山活動性評価の代表事例）
  - 09:40～09:50 西村太志（東北大学）内閣府火山防災および予知協議会
  - 09:50～10:00 前野 深（東京大学）内閣府技術動向 WG における検討内容の紹介
  - 10:00～10:10 藤田英輔（防災科学技術研究所）文科 PJ における中長期予測に資する研究— 特に防災科研による総合的火山活動評価
  - 10:10～10:35 高木朗充（気象研究所）気象庁による日本の活火山のランク分け
  
- ・ 講演第 2 部（地質学的手法，特に階段図を利用したマグマ噴火の傾向と噴火可能性評価）
  - 10:35～11:00 小山真人（静岡大学）階段図形状の意味と将来予測性
  - 11:00～11:25 中川光弘（北海道大学）文科省「次世代火山研究人材育成総合プロジェクト」で進めている階段図作成とその活用
  - 11:25～11:50 安井真也（日本大学）詳細な階段図の事例紹介と階段図の限界
  
- ・ 昼食休憩（フラッシュトークを開催します）
  - 12:30～12:35 殿山俊吾（東工大）高速・高精度な火砕流モデルの開発と応用
  - 12:35～12:40 寅丸敦志（九州大学）岩石組織を用いたマグマ供給率と噴出量予測
  - 12:40～12:50 三浦大助・奥野 充（大阪公立大）地質学的記録に基づく火山活動評価の高度化
  - 12:50～13:00 安田 敦（東京大学）「噴火予測のための簡単なマグマ供給系モデル」の階段図によるパラメタ推定
  
- ・ 講演第 2 部再開
  - 13:00～13:25 山元孝広（産業技術総合研究所）階段図(供給率変化)とマグマ供給系
  - 13:25～13:40 伊藤順一（産業技術総合研究所）階段図を用いたマグマ活動の評価指標の提案
  
- ・ 講演第 3 部（地物・化学・物質科学的手法による噴火可能性評価）
  - 13:40～14:05 下司信夫（産業技術総合研究所）岩石・鉱物学的手法による中長期火山活動予測
  - 14:05～14:30 森 俊哉（東京大学）火山性流体研究に基づく活動評価・予測
  - 14:30～14:50 宗包浩志（国土地理院）地殻変動観測に基づく活動評価・予測
  - 14:50～15:10 青山 裕（北海道大学）地震観測等の物理モニタリングに基づく活動評価・予測
  - 15:10～15:30 橋本武志（北海道大学）地下構造探査を中長期の噴火可能性評価にどう使うか
  
- ・ 休憩
  
- ・ 講演第 4 部（総合討論・パネルディスカッション）
  - 15:45～17:30 講演者全員

## 令和6年能登半島地震ワークショップ

### 【概要】

日時：2024年3月12日（火）午後13:00～17:10

場所：東京大学地震研究所1号館2階セミナー室

および zoom による配信

主催：地震・火山噴火予知研究協議会

### 【趣旨】

能登半島で本年1月1日に発生したM7.6地震の被害の甚大さに鑑み、災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)および同(第3次)に参加する研究者間で、観測研究活動内容の現状について情報交換を行う機会を設ける。3月13-14日に開催される成果報告シンポジウムにおいて、研究に関する議論を更に進めるための布石とする。

### 【世話人】

(予知協企画部戦略室員) 加藤愛太郎・加納靖之・田所敬一・松島信一・  
三宅弘恵・宮澤理稔

### 【WEB】

<https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/ex/H31-R5/R5/symposiumNoto20240312.html>

-----

※参加人数：208名

令和6年能登半島地震ワークショップ

日時：2024年3月12日（火）午後13:00～17:10

場所：東京大学地震研究所1号館2階セミナー室(80名程度) および zoomによる配信

主催：地震・火山噴火予知研究協議会企画部戦略室

13:00-13:05	主旨説明	戦略室員	企画部戦略室
13:05-13:20	令和6年能登半島地震について	下山利浩	気象庁
13:20-13:40	地殻変動および地震断層モデルについて	宗包浩志	国土地理院
13:40-13:55	能登半島北部沿岸の海底活断層と海岸隆起	宍倉正展・岡村行信	産業技術総合研究所
13:55-14:10	能登半島周辺における海底地形調査	石川直史	海上保安庁海洋情報部
14:10-14:25	緊急調査航海の状況報告	尾鼻浩一郎	JAMSTEC
14:25-14:40	海底地震計を用いた令和6年能登半島地震の海域緊急余震観測	○篠原雅尚・村井芳夫・日野亮太・東龍介・佐藤利典・塩原肇・望月公廣・一瀬建日・山田知朗・悪原岳・中東和夫・馬場久紀・伊藤喜弘・山下裕亮・八木原寛・仲谷幸弘・小平秀一・尾鼻浩一郎・藤江剛・高橋 努	東大地震研ほか
14:40-15:05	地震観測・測地観測に基づく能登半島地震の地震像とその背景	岡田知己ほか	東北大・金沢大・京大防災研・東大地震研・九州大・北海道大・弘前大・山形大・名古屋大・鹿児島大
15:05-15:20	(休憩)		
15:20-15:35	令和6年能登半島地震にともなう地震活動の時空間発展	加藤愛太郎・中川茂樹・蔵下英司・酒井 慎一	東大地震研
15:35-15:45	SAR 画像解析による3次元変動場とその特徴	福島洋ほか（発表：木戸元之）	東北大・災害研
15:45-15:55	文化遺産防災マップによる被災文化遺産推定	蝦名裕一ほか（発表：木戸元之）	東北大・災害研
15:55-16:10	令和6年能登半島地震前後の精密重力観測結果	田中愛幸・西山竜一・新谷昌人・堀田耕平・坂上啓・押田真紀・高田大成・中小路一真	東大理学部

(2023.3.8 版)

- |             |  |       |
|-------------|--|-------|
| 16:10-16:40 | 2020 年から継続した能登半島群 西村卓也<br>発地震と令和 6 年能登半島地震<br>(M7.6)                 | 京大防災研 |
| 16:40-16:55 | 津波波形と GNSS データのインバ 藤井雄士郎・○佐竹健治<br>ージョンによる令和 6 年能登半<br>島地震のすべり分布      | 東大地震研 |
| 16:55-17:10 | 2024 年能登半島地震の動的破壊 安藤亮輔<br>シミュレーション：滑り分布と<br>断層形状, 応力場, 地震発生履歴<br>の関係 | 東大理学部 |